

平成23年度全公立学校における負担感軽減に向けた
取り組み（全校プロジェクト）について（取組概要）
～ 小学校 ～

1 対象校及び回答状況

（平成23年8月31日現在）

全405校のうち休校の4校を除く401校全てで負担感軽減に向けた取り組みを実施。

《県内の地域別小学校数》

熊本市教育委員会	92校
宇城教育事務所管内	23校
玉名教育事務所管内	48校
鹿本教育事務所管内	20校
菊池教育事務所管内	33校
阿蘇教育事務所管内	27校
上益城教育事務所管内	27校
八代教育事務所管内	31校
芦北教育事務所管内	17校
球磨教育事務所管内	31校
天草教育事務所管内	56校
合計	405校

《回答した小学校数》

熊本市教育委員会	92校
宇城教育事務所管内	23校
玉名教育事務所管内	48校
鹿本教育事務所管内	20校
菊池教育事務所管内	33校
阿蘇教育事務所管内	27校
上益城教育事務所管内	27校
八代教育事務所管内	31校
芦北教育事務所管内	16校
球磨教育事務所管内	28校
天草教育事務所管内	56校
合計	401校

△休校1
△休校3

2 取組状況

(1) 必修取組事項

「ア ノー残業デー、ノー部活デーの実施」、「イ 一人一改善運動の推進」のうち、1つ以上取り組むもの。

表1 取組状況（必修総括）

項目	実施校数
ノー残業デー・ノー部活デー（ア）	233校（58.1%）
一人一改善運動（イ）	1校（0.3%）
両方とも（ア・イ）	167校（41.6%）
合計	401校（100.0%）

① 「ア ノー残業デー、ノー部活デー」の実施状況

ア) 取組内容

「ノー残業デー、ノー部活デー」に取り組んだ学校400校※1の取組内容は、下表2のとおり。

※1 表1より「ノー残業デー・ノー部活デー」233校 + 「両方とも」167校

表2 取組内容（ノー残業デー・ノー部活デー）

項目	実施校数
ノー残業デーのみ	26校 (6.5%)
ノー部活デーのみ	82校 (20.5%)
両方とも	266校 (66.5%)
その他(定時退勤など)	26校 (6.5%)
合計	400校 (100.0%)

イ) 実施回数等

表3 実施回数（ノー残業デー・ノー部活デー）

項目	実施校数
週1回(実施日未設定)	66校 (26.0%)
週1回(水曜日)	104校 (16.5%)
週2回以上	186校 (46.5%)
その他	44校 (11.0%)
合計	400校 (100.0%)

② 「イ 一人一改善運動」の実施状況

「一人一改善運動」に取り組んだ学校168校※2の取組内容(例)は、以下のとおり。

※2 表1より「一人一改善」1校 + 「両方とも」167校

【取組み例】

(業務改善)

- ・ ICT活用による教材や文書作成の共有化と簡略化を図る。
- ・ サーバーに教職員共有フォルダを設定し、校務分掌フォルダ作成して、全職員で活用するようにする。
- ・ 保護者携帯電話への連絡ツールとして「学校安全メール」を使うこと

で、学校からの案内・連絡等の文書量を減らしながらも、保護者に適切に情報発信する。

- ・ 「業務の簡素化」のために教師用サーバーに教材等を共有して活用できるようにし「授業準備」の簡素化を図る。
- ・ 校内研や職員会議の中で、改善されているかどうかの点検を行う。

(環境改善)

- ・ 学期末ごとに「業務の簡素化」について職員で見直しを図る。
- ・ 在勤時間把握表を記入し、毎日の勤務時間の実態把握に努め、過重負担傾向にある職員のサポート体制を組織する。
- ・ 知育・徳育・体育の3チームに分かれての諸教育活動の提案や改善策の検討。

(意識改善)

- ・ 業務の簡素化についてアンケートを実施する。
- ・ 一太郎、ワード、エクセルを一定基準だれもが使えるよう日常において教え合う。

(2) 自由取組事項

各学校の状況に応じて、自由に取り組むもの。

ア 学校運営（行事の見直し、会議・委員会の見直し、和やかな雰囲気づくり、年次有給休暇の取得促進など）

・・・ 382校

イ 業務改善（校務分掌や業務の改善、外部依頼の業務の見直し、校務のICT化推進など）

・・・ 386校

ウ その他（「ゆとり月間」設定、休業中の早めの退勤推進など）

・・・ 338校

表4 取組状況（自由総括）

項目	実施校数
ア 学校運営の改善のみ	5校 (1.3%)
イ 業務改善のみ	3校 (0.7%)
ウ その他	1校 (0.3%)
アとイ	55校 (13.7%)
アとウ	9校 (2.2%)
イとウ	15校 (3.7%)
ア、イ、ウ	313校 (78.1%)
合計	401校 (100.0%)

表5 取組項目数別学校数

項 目	
2項目以下の取り組み学校	37校 (9.2%)
3項目取り組んだ学校	84校 (20.9%)
4項目取り組んだ学校	111校 (27.7%)
5項目取り組んだ学校	91校 (22.7%)
6項目以上に取り組んだ学校	78校 (19.5%)
	401校 (100.0%)

① 「ア 学校運営」に関するもの

「学校運営」改善に取り組んだ学校382校※3の取組内容(例)は、以下のとおり。

※3 表4より 「ア」5校+「アとイ」55校+「アとウ」9校+「ア、イ、ウ」313校

【取組み例】

ア 学校行事の見直し

- ・ 校内研究推進委員会とプロジェクト会議の兼務化を図る。プロジェクトチーム会議のランチ・ミーティング実施。
- ・ ○○週間や○○旬間といった行事の整理、統合。また、計算大会や漢字大会等の時期の見直しを行った。
- ・ 授業参観の回数縮小。
- ・ ふれあいフェスタのPTA主催への移行。

イ 会議・委員会等の見直し

- ・ 年間の活動実績の少ない委員会等は、廃止又は統合（参加メンバーがほとんど同じ委員会を統合）する。また、職員会議を長期休業日に行い、定期の職員会議を簡素化する。
- ・ SSW・特別支援教育相談員と担任との話し合いの時間をランチミーティングとして行い、学級には補欠を充てる。
- ・ PCを活用した校内掲示板を活用し、簡単な連絡事項や会議題を事前提案し、会議時間の短縮・効率化を図る。
- ・ 関係団体会議、ブロック会議、研修会等への出張は、その効果を十分検証し、効果の乏しいものは参加を止める等、出張についての精選を行う。
また、復命書は、要点を整理したシンプルなものにする。

ウ 年次有給休暇等に関する見直し

- ・ 年間10日以上取得を目標とし、1時間単位の取得も奨励する。
- ・ 学年間のチームワークをもとに、年次有給休暇の取得しやすい雰囲気を作る。

② 「イ 業務改善」に関するもの

「業務改善」に取り組んだ学校386校※4の取組内容(例)は、以下のとおり。

※4 表4より「イ」3校+「アとイ」55校+「イとウ」15校+「ア、イ、ウ」313校

【取組み例】

ア 校務分掌や業務の見直し

- ・ 各教科等（学力充実タイムなど）における外部人材の活用について、学校とボランティアをつなぐコーディネーターとの連絡調整を充実する。
- ・ 必要に応じて担任業務の一部（ドリル等の採点など）を学習ボランティアに応援してもらう。
- ・ 部活動の見直しの実施（児童数の減少、職員の負担軽減のため部活動を1本化し、様々な活動を取り入れる）。
- ・ 部活動の各種大会参加の縮減（必要以上の大会参加はしない）。

イ 外部から依頼される業務等の見直し

- ・ PTA関連会議の削減（時間設定、会議回数等の見直し）。合同委員会を年3回から年2回へ削減した。
- ・ 学年・学級PTA行事は無理に行わない。必要な内容のみ行う。
- ・ 作品募集は思い切って厳選する。

ウ 校内LAN、校務支援システムの活用

- ・ 校務に関する文書を学校のファイルサーバに一括管理し共有する。さらに、過去2年分の公文書を整理し、すぐ参照できるようにする。
- ・ ICTがより効果的に利用できる環境づくりを行う（指導要録等のデジタル化や教室へのLAN接続等）。さらに、備品等の整備を通して業務の効率化を図る。
- ・ 保護者の連絡用にメール配信システムを導入。

③ 「ウ その他」に関するもの

「その他」改善に取り組んだ学校338校※5の取組内容(例)は、以下のとおり。

※5 表4より「ウ」1校+「アとウ」9校+「イとウ」15校+「ア、イ、ウ」313校

【取組み例】

ア ゆとり期間の設定

- ・ 長期休業中を「ゆとり月間」とし、年休、特別休暇、週休日を組み合わせたりフレッシュ休暇の取得を推進する。
- ・ 体調不良時には無理をせず、休みを取りお互いのフォローをする。

イ 定時退勤の推進

- ・ 全員退校時間を設定する（19時30分までには全員退校）。

ウ その他

- ・ 職員間のつながりの促進（職員間の人間関係・つながりを円滑にし、職務能率の向上を図る）。
- ・ 放送での呼び出しを職員、児童ともに行わない。（緊急の場合を除く）
- ・ 夏季休業中にストレスマネジメントの研修を実施する。
- ・ 昼休みに子どもと一緒に過ごす時間を意識して設定し、メリハリのあ
る勤務とする。